

思考力・判断力・表現力等の育成をめざす中学校社会科歴史分野における授業改善

— OPP シートとパフォーマンス課題を手立てとし、比較を通して時代の特色を捉える授業実践 —

応用領域授業づくり履修モデル
池本 豊

I 研究主題の設定

1 社会科教育の課題から

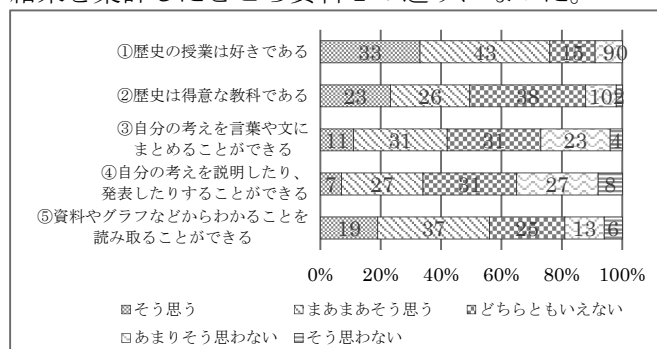
中教審は、2016年12月の答申の中で社会科教育の課題を次のように示している¹⁾。

- ①主体的に社会の形成に参画しようとする態度が不十分である。
- ②資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分である。
- ③社会的な見方や考え方の全体像が不明確で、それを養うための具体策が定着するまでには至っていない。
- ④近現代に関する学習の定着状況が低い傾向にある。
- ⑤課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業が十分に行われていない。

以上の5点を解決する授業を展開し、生徒を育成していく必要があると考える。

2 本校の生徒の実態から

2018年12月に、現任校の中学1年生96名を対象に、歴史の学習に関するアンケートを実施した。その結果を集計したところ資料1の通りになった。



【資料1 歴史学習に関するアンケート結果】

①から、歴史の授業に対して、肯定的にとらえていることがわかる。ただ、得意だと答えた生徒、苦手だと答えた生徒に理由を尋ねたところ、「歴史は暗記教科だから」という言葉が共通して出てきた。これは、社会科教育の課題の2つ目と関係していると考えられる。

また、③④の結果を見ると、思考・判断・表現に対して苦手意識をもっていることがわかる。以上のように本校の生徒も中教審が示した社会科教育の課題を抱えているという実態がアンケートから見えてきた。

3 本校の社会科教員の実態から

歴史の授業を行う上で、日々悩んでいることを尋ねたところ、次のような回答を得た。

- ①覚えさせる内容が多く、講義形式になってしまう。
- ②講義形式になってしまうから、思考・判断・表現させる場をなかなか作ることができていない。

③授業改善をどのようにすればよいのかわからない。

社会科教員の実態として、「講義形式で終わってしまう授業を改善したい」「説明して覚えさせるだけの授業を改善したい」という悩みが明らかになった。

4 新学習指導要領から

新学習指導要領では、「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を、「社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること」とし、考察、構想する際の「視点や方法(考え方)」であると述べている。また、「歴史的分野において養われる思考力、表現力」については、「歴史的な見方・考え方をを用いて、歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色や、事象相互の関連を多面的・多角的に考察する力」としている。そして、「歴史的分野の学習の特質」を「時代の転換の様子や各時代の特色を考察したり、歴史に見られる諸課題について複数の立場や意見を踏まえて選択・判断したりする」ことであると述べている。ここに挙げられた力を養うことが、新学習指導要領では歴史的分野における目標であるとしている²⁾。

5 本研究の方向性

以上4つの実態や背景から、「説明→暗記」という授業の流れを改め、思考や表現活動が学習の流れの中に組み入れられた授業実践に取り組み、思考力・判断力・表現力等を高める授業のあり方について研究したいと考えた。そのためには、先に挙げた社会科教育の2つ目の課題である「社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分である」ことや、本校の職員が抱えている課題「講義形式中心の教え込みの授業を改善したい」ことを解決することが必要になると思われる。そのための1つの手立てとして「比較を通して考える場」や、思考ツールの一つである「OPPシートを活用」し、時代の特色について思考・表現させる場を設定した単元構成が有効ではないかと考えた。また、単元のまとめとして、これまでに学習してきた知識や技能をどう活用し、表現するかを生徒自身に考えさせる「逆向き設計論に基づくパフォーマンス課題」を設定することも生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に有効な方策だと考えた。

II 研究の背景となる先行研究

1 比較を取り入れた授業に関する先行研究

丸山(2014)は、時代の特色を捉える力を高めるため

に、三段階構成の学習過程と学習過程に対応した生徒の思考を支援するシンキングシートを取り入れた実践を行った。三段階構成の学習過程とは、「さまざまな要素ごとの事象解釈を獲得する学習過程」「前の時代と異なっているところを捉える学習過程」「時代の特色としてまとめる学習過程」のことである。これらの学習過程の中で、順序立てて思考させるためのシンキングシートを活用させながら、室町幕府と江戸幕府との比較を通して相違点の原因について考えさせた。その結果「江戸幕府は諸政策の成果による安定した政権で、争いが少ない」という事象解釈の質を高めることができたとしている。そして「前の時代と異なっているところを捉える学習過程」の場において、比較をするという活動を組み込むことが、時代の特色を捉えるための思考力の育成に有効であると述べている³⁾。

松本(2016)は、時代の特色を捉えるために、「課題を設定する過程」「課題を追究する過程」「まとめる過程」の3つで構成された問題解決的な学習を繰り返して行う実践に取り組んだ。その際、生徒が思考を働かせて課題を追究し、解決するためには「課題を発見する」ことが重要だとし、その方策として「比較」を用いている。実践では「近代の日本と世界」の単元において、生徒が「事象相互や事象と既習知識の比較から共通点や相違点に気づき、疑問を焦点化して設定した課題」を追究し、解決していく問題解決的な学習を繰り返したことで、歴史的事象を多面的・多角的に考察する力が育ち、時代の特色を捉えることができたとしている。そして、生徒の思考力を高め、時代の特色を捉えるために、比較を通して考えさせたことが有効であったと述べている⁴⁾。

2 思考ツール（OPPシート）を活用した授業に関する先行研究

OPPシートとは、学習履歴を一枚のシートにまとめ、自分の学びを俯瞰的に見られるようにしたもので、①単元名タイトル②受講前・後の本質的な問い③学習履歴④自己評価の4点から構成されている。(山下・堀、2009)⁵⁾ これは、主に理科の分野で子どもが日常生活の中で身につけた素朴概念を科学概念へとしていくために使用されるが、社会科でも思考力・判断力・表現力等を育成するために活用された例が見られる。

福谷・皆川(2013)は、「教えて考えさせる授業」をめざし、生徒の言語力、思考力を高める手段として「背景知識」と「一枚ポートフォリオ」を導入した実践を行った。授業の内容をより深く理解させるために、アフリカの民族問題についての背景知識を生徒に説明しながら授業を行い、学習活動を通してわかったことや疑問に思ったこと、生徒個人の感想などを一枚ポートフォリオにまとめさせた。このような言語活動を継続していくことで、生徒の理解を深めるとともに、レポートなどをまとめたり、他者に分かりやすく伝える

ための社会的思考力や言語能力を高めたりすることができたと述べている⁶⁾。

3 パフォーマンス課題の設定に関する先行研究

松岡(2016)は、時代の特色を捉えるための思考力を育てるために、探究型の授業を構成し、単元にパフォーマンス課題を取り入れた実践を行った。その中で、歴史的事象を多面的に捉える1時間ごとの学習活動で「何故疑問」を探究し、そこから事象同士を関連付けたり、既習の時代と比較させたりすることで、本質的な因果関係を見出し、概念的知識を習得することができる⁷⁾と述べている。また、日本の開国についての瓦版を作成するというパフォーマンス課題を設定することで、生徒は習得した概念的知識を活用しながら時代の特色に迫ることができたとしている。そして、「概念的知識を活用して説明するパフォーマンス課題に取り組ませることは、時代の特色についての思考を整理する、つまり知識の再構築に役立つことがわかった」と述べている⁷⁾。

4 先行研究のまとめ

それぞれの実践で、比較、OPPシート、パフォーマンス課題を取り入れることの有効性を確認することができた。そこで、これらの手立てを組み合わせることによって、より思考力・判断力・表現力等を高めることができるのではないかと考えた。

Ⅲ 研究の内容と方法（実践デザイン）

1 研究の目的

中学校社会科歴史分野において、「比較を通して考える場の設定」と「OPPシートの活用」を毎時間積み重ねていき、単元のまとめにパフォーマンス課題を設けることで、講義形式の授業では育成が難しい生徒の思考力・判断力・表現力等を高めていくことができることを検証する。

2 めざす生徒像

既習の時代との比較を通して、共通点や相違点に着目し、そこから背景や原因、影響などを考察し、時代の転換点や時代の特色について捉え、自分なりの言葉で適切に表現することができる生徒。

3 めざす生徒像に迫るための具体的な手立て

めざす生徒像に迫るため、『武士の台頭と鎌倉幕府』（7時間完了）の単元において以下の手立てを講じた。

(1) 比較を通して考える場の設定

比較について、北(2012)は、資料を比較させる際、違いが生じた原因を含めて相違点を捉えることの重要性を述べている⁸⁾。このことから、既習の時代との比較をする際、共通点と相違点を明らかにさせた後に、共通点を踏まえて相違点の生じた原因や背景などについて考察させる。このような学習場面を毎時間設けることで、生徒の思考力は高まり、歴史的事象に対する理解は深まると考える。

第2時から第5時までの授業は、既習の時代との比較をすることで、鎌倉時代の特色を捉えることができるようになっていくと考える。以下は毎時間の授業のねらいと比較の内容である。

- 第2時：平氏の政治の特色を捉えさせるために、藤原氏による摂関政治と比較する。
- 第3時：鎌倉幕府のしくみを捉えさせるために、律令制度下のしくみと比較する。
- 第4時：鎌倉時代の武士や民衆のくらしの特色を捉えさせるために、奈良・平安時代のくらしと比較する。
- 第5時：鎌倉時代の文化の特色を捉えさせるために、平安時代の文化と比較する。また、鎌倉時代の文化同士の比較も行い、共通点や相違点を探り、特色を捉えさせる。

このような比較を通して考える場を設けることで、政治面・生活面・文化面における歴史的特色を生徒自身で見出せるようにする。

なお、第1時については、比較を取り入れなくても生徒から思考力・判断力・表現力等を働かせ、「武士の成長」という学習課題に迫ることができると考え、比較を取り入れずに実践する。

(2) 思考ツール (OPP シート) の活用

OPP シートには、毎時間「時代の特色」について記述することになるため、思考力・判断力・表現力等が育成できるのではないかと考える。

そこで授業の終末に、比較を通して考えたことからのどのような特色があると言えるのかを OPP シートに記述させる。以下は、OPP シートの課題内容である。

- 第2時：平氏政治の特色を書きましょう
- 第3時：鎌倉幕府の特色を書きましょう
- 第4時：鎌倉時代の生活の特色を書きましょう
- 第5時：鎌倉時代の文化の特色を書きましょう

これらの課題は、パフォーマンス課題と共通しており、毎時間の授業で取り組ませることによって、生徒はパフォーマンス課題に取り組む際に視点や書き方を参考にすることができる。このように OPP シートをパフォーマンス課題に取り組むためのプレ課題として位置付けて取り組ませることで、思考、表現する場とする。そして、時間があれば OPP シートの内容について意見交換を行い、どのような記述がよいのか (視点と書き方) を確認する。時間が取れない場合には、他の生徒の考えを紹介する授業通信を配付することで、指導を行っていくことにする。授業通信は、書くことに対して苦手意識をもっている生徒や、書く内容についてどういった視点を持ち、どのように書けばよいかわからない生徒にとっても参考になると考える。

(3) パフォーマンス課題の導入

パフォーマンス課題について、西岡 (2008) はリアルな文脈の中で知識やスキルを使いこなすことを求め

る課題であると定義している。知識やスキルを関連付け、総合して得られるような永続的理解 (原理と一般化) を身につけさせる必要がある、その原理と一般化を身につけたかどうかを評価するために適した課題であるとしている。パフォーマンス課題を設定するにあたり、西岡は「知の構造」をつくる必要があると述べている。「知の構造」とは、「逆向き設計」論における知の捉え方を表したものである。この「知の構造」をつくることで、授業で習得させる知識や技能が明確になると述べている。また、単元の中核部分を見極め、その中核部分に対応させてパフォーマンス課題を用いるべきであるとしている⁹⁾。そこで、本単元における「知の構造」を次図のように設定する。



【図1 知の構造】

そして、それまでの学びを活かし、生徒の思考力・判断力・表現力等を高めるために、単元のまとめにパフォーマンス課題を実施する。今回は、それまでの学びを振り返るための問いと、既習事項との比較を通して時代の転換点について考えられる問いにするために、次のような課題を設定する。

【パフォーマンス課題】

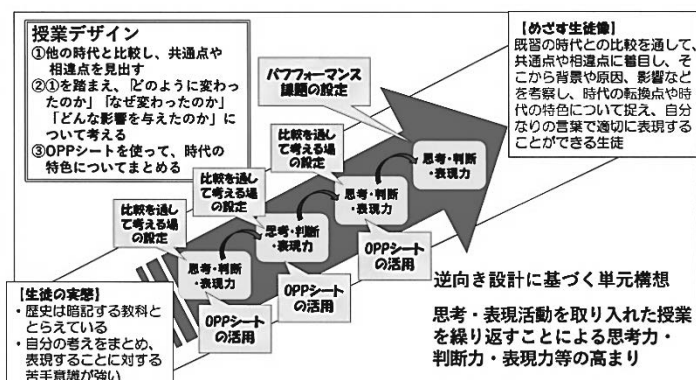
あなたは若い歴史研究者です。ある日、歴史展の企画募集のポスターを目にしました。歴史展のテーマは、『なるほど鎌倉時代！～この時 歴史が動いた～』です。あなたはその企画に応募するために、企画書をつくることにしました。

企画書をつくるにあたり、鎌倉時代の特色を①政治について、②人々の生活について、③文化についての3点に分けて整理しましょう。その中で、あなたはどの出来事を歴史展の目玉として取り上げるのか、その理由をできるだけたくさん書いて、魅力的な歴史展の企画書を完成させてください。

また、生徒がパフォーマンス課題に関心をもって取り組めるように企画書型のワークシートと歴史展の企画書募集のポスターを作成した。

4 実践研究の構想

以上の手だてを踏まえ、研究構想図を次に示す。



【資料2 研究構想図】

5 検証計画

生徒の思考力・判断力・表現力等の育成を確かめるために、以下2つの方法で検証を行う。

(1) OPPシートの記述内容の分析(以下分析A)

分析A: 授業では、既習の時代との比較を通して共通点や相違点に着目させ、「前の時代とどのように変わったのか」「なぜ起こったのか」「どのような影響を及ぼしたのか」について考察させる。それらを踏まえ、OPPシートを使って、政治面・生活面・文化面におけるそれぞれの時代の特色について記述させる。そこで、他の時代との比較を通して、時代の特色(どのような政治・生活・文化であった)について見出すことができたかを検証する。OPPシートの記述内容を分析し、以下の基準で評価する。

A: 比較を通して共通点や相違点に着目し、前の時代とどのように変わったのか、なぜ違うのかなどについて記述し、さらにそこから時代の特色を見出し、適切に表現している。

B: 比較を通して共通点や相違点に着目し、前の時代とどのように変わったのか、なぜ違うのかという変化や原因を時代の特色として記述している。

(2) パフォーマンス課題の記述内容の分析

(以下分析B・分析C)

分析B: 時代の特色について記述する課題で、改めて政治面・生活面・文化面における歴史的特色についてまとめさせる。特に政治面に関しては、第1時から第3時の内容をまとめる必要がある。そこで、(1)と同じように他の時代との比較を通して、時代の特色(どのような政治・生活・文化であったか)について見出すことができたかを検証する。評価の基準も同様とする。

分析C: 歴史展の目玉企画を推す理由を書くという課題で、他の時代と比較をしながら時代の転換点についても意識して書くことができたかを検証する。評価基準は以下の通りである。

A: 目玉企画を取り上げる理由として、「比較」(他の時代との共通点や相違点について記述する)だけでなく、「時代の転換点」(世の中に与えた影響や違いが生まれた原因・背景について記述する)という

2つの観点から具体的に述べている。

B: 目玉企画を取り上げる理由として、「比較」か「時代の転換点」のどちらかの観点で述べている。または、両方の観点から述べられているが、具体的な記述がない。

IV 検証実践

- 1 調査対象: 豊川市立A中学校第1学年
32名(男子18名 女子14名)
- 2 調査時期: 2019年9月
- 3 単元名: 武士の台頭と鎌倉幕府
- 4 授業の実際

(1) 第2時「武士の政権の成立」

第2時では、平氏による政治の特色を生徒たち自身でつかむことができるように、学習課題を「平清盛が武士としてはじめて実権を握ったが、清盛から武士の時代とならないのはなぜか」と設定し、平氏と藤原氏の政治を比較させた。これまでの講義形式に慣れ、比較を通して考える授業にあまり慣れていないことが予想されたので、共通点や相違点などを探し、そこから学習課題について考えるように伝えた。また、資料集には平清盛の武力・政治力・経済力を古代の政治と比較するページがあったので、そこに挙げられた観点を前の時代と比較する際の参考にさせた。

生徒は与えられた観点について考えるために、教科書や資料集を真剣に調べていた。その中で、「平氏が朝廷の中で力を強めるきっかけとなったできごと」や、「古代の藤原氏が政治上の敵を倒してきた方法」などを見つけながら、平氏政治の特色について武力の面から考察していた。また、政治力や経済力の面からも、共通点や相違点をあげながら特色について考察した。そして、平氏政治を「武力を使うところは貴族と違うけど」「貴族のような政治」「自分勝手な政治」「藤原氏と似ていて欲張りな政治」といった言葉で表現した。以下に授業を踏まえて「平氏政治の特色」について記述した生徒のOPPシートの抜粋を示す。

《A評価》

生徒ア「平氏の政治は、藤原氏と似ていて、娘を天皇の後にしたり、太政大臣になったり、荘園などから多くの収入を得ていた。だが、藤原氏とはちがい武力を使ったり、日宋貿易をしたりなど、平氏の政治は貴族と武士の混ざった政治である。」

生徒イ「平氏の政治は『戦いや武力』というものを交えつつも貴族的というのを感じた。太政大臣(朝廷の高い地位)についたところや荘園などを利用したところは貴族的で藤原氏の政治に似ているが、宋との貿易を行ったところ、摂政や関白が使われていないところは平氏の独自の政治だと感じた。」

《B評価》

生徒ウ「藤原氏のように、娘を天皇の後にし、権力を

つけ、太政大臣になった。荘園などから多くの収入を得ていた。(太政大臣は朝廷の位の最上位) 生徒エ「平氏は藤原氏と同じで、娘を天皇の后にし、権力を強め、荘園からは多くの収入を得る。」

《C評価》

生徒オ「2つの乱に勝った清盛は、武家政権をつくって政治を行っていたけど、1185年の壇ノ浦の戦いで平氏は滅亡した。」

OPPシートを記述した後、わずかな時間ではあったが意見交換の場を設けた。そこで生徒は、どのような視点について書けばよいのか、そのきっかけをつかむことができたようであった。

(2) 第3時「鎌倉幕府の成立と執権政治」

第3時では、幕府のしくみを理解させるために、律令制度下における朝廷のしくみとの比較を行った。

「軍事や財政、政治に関する役職は古代のしくみに似ている」ことや、「天皇・皇室関係の役職がなくなったことは異なっている」ことに気づき、幕府のしくみを「武士中心」「武士のため」「シンプル」「必要最低限」という言葉でまとめることができた。

ただ、この時間は、承久の乱から将軍や執権と御家人の関係についても押さえる必要があり、承久の乱で幕府側についた武士の理由についても考えさせたため、考察する時間を十分にとれなかった。以下に、授業を踏まえて「鎌倉幕府の特色」について記述した生徒のOPPシートの抜粋を示す。

《A評価》

生徒カ「幕府では武士がトップで武士中心に結成されている。また、朝廷と違って職務がシンプルで必要最低限のものになっている。幕府と武士の関係は、御恩と奉公で結びつき、武士は幕府に貢献する。」

生徒キ「朝廷と幕府のしくみは似ているが、朝廷は天皇関係の仕事がなくなり、シンプルな仕組みになりました。そして、今まで天皇中心だったけれど、武士に代わり鎌倉幕府のしくみは将軍重視になりました。将軍と御家人との御恩と奉公の関係ができました。」

《B評価》

生徒ク「鎌倉幕府は二官八省ではなく、シンプルです。警備など以前から続く仕事もある。」

生徒ケ「武士が政治の中心でしくみはシンプルである。朝廷のしくみにていところがある。」

《C評価》

生徒コ「鎌倉幕府は他の時代と違って、昔の時代を改善していい時代にしたから他の時代よりとてもいいと思いました。」

生徒サ「鎌倉幕府はいつできたかは知っていたけど、でも今日やってわかりました。」

第3時では、OPPシートについて意見交換をする時間が取れなかったため、次時に授業通信を配付した。

(3) 第4時「武士と民衆の生活」

前時にできなかったOPPシートの意見交換の代わりに授業通信を配付し、時代の特色について書くための視点や書き方を参考にさせてから授業に入った。

第4時では、鎌倉時代の生活面の特色について考察するために、武士と民衆の暮らしについてそれぞれ既習の時代である奈良・平安時代と比較をした。前時の反省から、武士と民衆の2点についてそれぞれ比較を行うと、じっくり考察する時間の確保が難しいと考え、民衆の暮らしに重点を置いた。

生徒は奈良・平安時代の資料と見比べながら、「庶民の食事の内容が充実してきた」こと、「住まいは竪穴住居から現代に近い形になってきた」ことなどの変化に気づくことができた。また、「奈良時代の服は白いけど、鎌倉時代の服はいろいろな色がある。それは、紺屋ができたからだと思う」「家が今っぽくなったのは、のみやカンナなど大工道具が増えたからだと思う」

「手工業が発達したからいろいろなものがつくられるようになり、定期市が発達したと思う」など、資料の比較を通して気づいたことと、教科書や資料集に記載されていることを関連付けた発言が多く聞かれた。以下に、授業を踏まえて「鎌倉時代の生活の特色」について記述した生徒のOPPシートの抜粋を示す。

《A評価》

生徒シ「武士は平安時代の貴族と違って、常に訓練をしており、ぜいたくではないくらしをしており、農民は衣食住が現代に近づき、農業や手工業が発達したものの、地頭によって理不尽な思いをしたり、年貢を納めなければならなかった。そして、農民による地頭への反発などで民衆の団結力が強まった。」

生徒ス「武士の生活は訓練が中心だった。また、貴族のようにぜいたくではなく、板ぶきの家など最低限過ごせる生活をしていて。民衆はいろいろな産業が発達し、生活はしやすくなり、買うことができる市場が開かれ、比かく的豊かな生活であるため、時代によって進化しているといえる。ただ、年貢の負担は変わらず、そのため、生活は楽ではなかった。」

《B評価》

生徒セ「武士は武芸の訓練をし、荘園に簡素な館、質素なくらしをしているが、庶民は昔より進化していいものになっていたが、年貢をおさめなければならない。」

生徒ソ「鎌倉時代の人々のくらしは奈良時代よりレベルアップしたくらし。農業に力を入れていて、その農業の工事などから民衆同士が協力し合っていた。」

《C評価》

該当なし

第4時でも、OPPシートについて意見交換をする時間が取れなかったため、次時に授業通信を配付した。

(4) 第5時「鎌倉時代の文化と宗教」

今回も、授業通信を配付してから授業に入った。

第5時では、文化面での特色について考察するために、金剛力士像と平安時代の像とを比較した。

生徒は、「体が筋肉質」「顔がこわい表情をしている」「武器をもって強そう」など、金剛力士像の外観から特色である「武士らしさ」を見つけていた。また、設置されている場所に注目した生徒もおり、「平安時代の仏像は中心に立っていて拝むためって感じだけど、金剛力士像は門の端で守っているところがいかにも武士っぽい」という発言があった。これらの表現は、教科書や資料集には見られず、生徒たち自身で考え出したものである。

また、鎌倉時代を代表する文化は金剛力士像だけではないので、教科書で取り上げられているその他の「新古今和歌集」「平家物語」「鎌倉仏教」についても考えさせることにした。これらを一つずつ比較するのは時間が足りないので、どれが一番鎌倉時代を代表するものかを考えさせた。順位づけた結果に意味はないが、その過程では比較が行われるので、鎌倉時代の特色について改めて見つめ直すことができると考えた。

グループで話し合った意見を発表したところ「新古今和歌集は鎌倉幕府を倒せなかった後鳥羽上皇がつくから鎌倉っぽくない」「平家物語は平氏の話だから、鎌倉時代ではない」「『武士＝人殺し＝悪人』その悪人が救われる教えだから鎌倉仏教は鎌倉時代を代表する文化だと思う」「どの宗派も努力を大切にしているところが、武士っぽい」といった意見が出された。生徒なりに鎌倉時代の特色について考察していると考えられる。以下に、授業を踏まえて「鎌倉時代の文化の特色」について記述した生徒のOPPシートの抜粋を示す。

《A評価》

生徒タ「鎌倉時代はトップにあるのが武士なので、仏教や仏像にも武士っぽさが出ていた。しかし、古今和歌集のように、平安時代の影響を受けているものもあり、すべてが武士のようになっているわけではなかった。主に、武士っぽさは質素な感じ、筋肉や力のある感じがあった。」

生徒チ「鎌倉時代の文化は金剛力士像や平家物語のように鎌倉時代の独自の文化もあれば、新古今和歌集や鎌倉仏教のように昔から続く文化もある。鎌倉時代独自の文化はやはり武士に関係するものが多く、特に金剛力士像は今までの像とは違って、体つきがしっかりしていたり、怒ったような表情だったり、門の両端で守るような場所にあたりと、武士のような像である。」

《B評価》

生徒ツ「平安時代は貴族になじんだ文化で、鎌倉時代の文化は金剛力士像や鎌倉仏教から武士になじんだ文化といえる」

生徒テ「金剛力士像は平安時代の像と比べて、武士ら

しく、男らしい体つきで筋肉がありました。だけど、木で作られていて光っていませんでした。鎌倉仏教では、いろいろな宗派が生まれました。」

《C評価》

生徒ト「金剛力士像は鎌倉の時のもので、この時代に仏教は平安のイメージが強いけれど、鎌倉のこの文化の時にもあった。」

生徒ナ「鎌倉文化にかかわる物は多くあって、けどその中にみんなが思う鎌倉と同じ物もあって、ちがう物があるけど、全部おぼえていきたい。」

第5時では、OPPシートの記述について意見交換をする時間をわずかではあるが確保できた。級友の意見に納得する姿から、時代の特色について記述する際の視点や書き方を学ぶ機会になったと考える。

(5) 第6時・第7時「パフォーマンス課題」

第6時でパフォーマンス課題について取り組み、第7時で振り返り（意見交流）を行った。

第6時では、生徒がより意欲をもって課題に取り組めるように、歴史展の企画募集のポスターを提示した。ポスターを見た生徒たちは、「これ本物?」「おもしろそう」「目玉企画は何にしよう」と狙い通りの興味を示した。企画書に似せたワークシートを配付すると早速記述する姿が見られた。時代の特色をまとめる欄には、自分のOPPシートを見返したり、これまでに配付した授業通信を参考にしたりしながらまとめていた。これまでOPPシートにまとめることに対して苦手意識をもっていた生徒たちも、悩む様子がなく記述する姿が見られ、まとめることに慣れてきた様子がうかがえた。目玉として取り上げた理由を書く際には、教科書や資料集などを見ずに書いていたことから、生徒の中に自分なりの思いや考えがあることが推測できた。1時間があっという間に過ぎてしまい「もう少し時間がほしかった」「あと1時間あればもっと書けた」という声も聞かれた。

第7時は、それぞれの考えを伝え合う意見交換の場として位置付けた。しっかりと級友の意見を聞いてほしいと考え、グループごとに意見交換を行い、お互いにそれぞれの意見の良かった点を書かせるようにした。また、グループの中で一番良いと思った生徒を代表にして、その意見を聞く場も設けた。

代表の発表は、既習の時代との比較や、歴史の転換点を踏まえた発表が多かったため、聞いている生徒も感心しながら聞いている様子だった。代表の発表を聞いた感想に「他の時代と比べていたからよかった」「時代の転換点だということが伝わったからよかった」などの記述が見られたことから、多くの生徒が意見交流を通して、パフォーマンス課題のねらいに気づくことができたと考えられる。以下は、「時代の特色をまとめる」記述の抜粋である。《 》は、OPPシートの評価とパフォーマンス課題の評価の変化を表している。

【政治】

《B⇒A評価》

生徒ニ「自分の娘を天皇の后にするなどして貴族のような力を使って上の地位へと上がっていく平氏と違い、武士らしく武力を使い、上の地位へと上がっていた。そのため政治も貴族中心で進めていくのではなく、武士が中心となって進めていった。武士のための幕府は、必要最低限のしくみでできている。また、將軍と家来は土地で結びついている。」

《B⇒B評価》

生徒ヌ「律令は皇室関係の仕事が多いが、鎌倉幕府は皇室関係の仕事がなくなった。鎌倉幕府は侍所など、律令と似たところがあるが、律令よりシンプルなしくみである。トップは天皇ではなく武士。つまり、武士が中心の武士のための政治といえる。」

《C⇒B評価》

生徒オ「政治は、藤原純友の乱や平将門の乱で武士がその戦いを鎮めたから朝廷から武士が認められ、そこから力をつけた。それで武士が政治のトップになった。しかも、貴族藤原氏みたいに自分の娘を天皇の后にしたりしながらトップになった。鎌倉幕府は律令よりシンプルでなんと8個の役職しかありません。」

【生活】

《B⇒A評価》

生徒セ「武士と庶民の暮らしが似ていて武芸の訓練をし、質素な生活を送っている。庶民は昔の時代と比較すると現代の生活に少しずつ近づいているとわかった。衣食住すべてが進歩していて、それが商業の発達にもつながっていて、時代の流れを感じた。でも、まだまだ負担もあるし、厳しい暮らしをしているんだなとも思った。」

《B⇒B評価》

生徒ネ「武士は江戸時代のイメージの「お城」というより、板ぶきの館で質素な生活を送っていた。また、馬や弓などの武芸の訓練もおこたらなかった。庶民の暮らしは奈良時代と比べると現代に近づいており、二毛作などを取り入れ農業に力を入れていた。農業の工事などから庶民同士が協力し合っていた。この時代ではまだ農民と武士の暮らしの差はあまりないと感じた。」

《C⇒B評価》

該当なし

【文化】

《B⇒A評価》

生徒ノ「文化にも『武士らしさ』『武士っぽさ』が表れる程、鎌倉時代は全体からみても『武士』というのが強いと感じた。一つ前の平安時代と比べてもやはり『武士』がメインとなっていると思う。だが、『新古今和歌集』など平安時代からのものも残っており、この時代は鎌倉8割、平安2割という感じだと思った。」

生徒テ「仏像は平安の仏像と比べても鎌倉の方が筋肉質で、武士らしさがある。また仏教も広まり、どの宗教にも努力をすることを大切にしている。しかし、鎌倉らしくない新古今和歌集は、どちらかという平安文化に近い。だから文化は、貴族の文化から武士の文化に変化する途中だと感じた。」

《B⇒B評価》

生徒ハ「鎌倉仏教は鎌倉時代にあった仏教で、教えが武士に向けたものが多く、努力という点で武士らしく、信者にも武士が多く鎌倉時代らしい。それに鎌倉仏教は、国風文化の仏教と比べ、貴族に向けた教えから今になじんだ教えになっているから。この時代の文化は、やはり武士らしさがある。」

《C⇒B評価》

生徒ト「『平安の像』・材料：金属＝ごうか ・場所中心にある＝守られている感じ ・顔：おだやか、優しそう →貴族らしい 『鎌倉の像(金剛力士像)』・材料：木＝陰でがんばっている ・場所：端＝守っている ・顔：目つきが鋭くこわそう ムキムキ、筋肉質、武器 →武士らしい文化」

生徒ナ「金剛力士像や仏教、平家物語などがある。そして、新古今和歌集などもある。平安に比べておだやかな像からけわしい顔の像ができたり、武士の物語ができたりした。全体的に武士っぽい文化。」

次に「歴史展の目玉企画」の記述の抜粋を示す。

《A評価の生徒》

【金剛力士像を選んだ生徒】

生徒ヒ「今までになかった木造でたくさんの部品が使われている。そして、今までの仏像と比べると、まるで戦いをしている武士のような顔、きたえぬいた体つきになっていることから、前の大仏のような神々しさやおだやかさが消え、武士がイメージされていることがわかるから。中心に立つのではなく、両サイドに立っていて、幕府や天皇の住まいを警備しているように見えた。そのことから今までとは違い武士が中心だということが一番示されていると思ったから。」

【源頼朝を選んだ生徒】

生徒フ「なぜ源頼朝を選んだのかというと、理由は頼朝が平氏を倒し幕府を開いたことです。過去の歴史を見てみると、その時代のときに力を持っていた人や中心に居る人が倒されると時代が変わっていると思うので、とても力をもった平氏を倒したことで時代が変わった、動いたんじゃないかなと思いました。また誰もしなかった、武士がトップの幕府を作り、そこから武士の時代が始まっています。なので頼朝が時代を動かしたんじゃないかなと思いました。どの時代も強い力をもった貴族や皇族、またはだれもしなかったことをして成功した人が中心に居て歴史を動かしていると思うので頼朝を選びました。」

《B評価の生徒》

【源頼朝を選んだ生徒】

生徒へ「源氏は平氏よりとても武士らしい政治をし、朝廷とは違い、必要最低限に役職をおさめて、初めて幕府を開き、歴史をうごかした人物だからである。また、頼朝は人々をまとめるために今までの朝廷はしてこなかったたくさんのことを行ったことも今までとは違うところであると思う。」

【鎌倉幕府を選んだ生徒】

生徒ホ「今までの政治とは変わって貴族中心から武士中心となった。このことから、この鎌倉幕府は時代が武士の世の中になったまさに「時代の転換点」といえる。そしてこの鎌倉時代を代表する政治だから。聞いたことはあっても、くわしく知らないという方にぜひ来てもらいたく、この鎌倉幕府への理解度を、より高めてほしいから。」

し、時代の特徴を見出す力を育成したかったので、特徴を述べる際に「前の時代とどのように変わったのか」ということを記述した」という姿は生徒が思考を働かせた第一歩であると考えます。

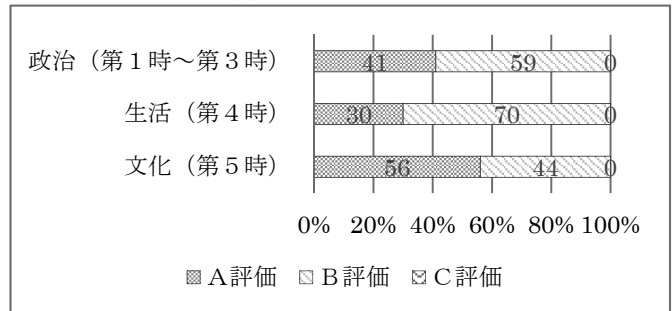
A評価が少なかった原因として、OPPシートに取り組みせる時間を十分に確保できなかったことが考えられる。比較をして気づいたことから特徴を見出す活動はどうしても時間がかかる。そのため、しっかりと書かせる時間がとれなかったことが原因の一つだと考える。実際に、A評価ではなかった生徒にたずねたところ、「もう少しまとめる時間があれば書けた」という生徒が多数いた。そこで、知の構造を見ながら教える内容を精選することや、授業の展開についての工夫が必要になってくると考えた。

また、OPPシートの意見交換の場をしっかりと確保できず、どのような記述がよいのか（視点と書き方）を十分に学ばせることができなかったことも原因の一つであると考えます。A評価の生徒が頭の中で行っていた一連の思考の流れをB評価の生徒たちにもしっかりと共有させることができれば、記述の内容は向上すると考える。この点についても時間の確保が関わるため、一時間ごとの授業構成について工夫していく必要がある。

第5時でA評価が多くなったのは、思考・表現活動を取り入れた授業を積み重ねたからではなく、単に内容の問題であると考えます。IV章(4)生徒タ・チの記述に「武士っぽさ」「武士のような」「鎌倉時代独自の」という表現が見られるように、「文化」は取り上げた事象から時代の特徴を見出しやすい内容であったと考えます。

C評価の記述をみると、わかったことや感想を書いており、何を書くのか十分に理解できていなかったことがうかがえる。これは、OPPシートの振り返りから視点をつかみ、まとめる活動を繰り返すことで、意図を理解して書くことができるようになると考えます。

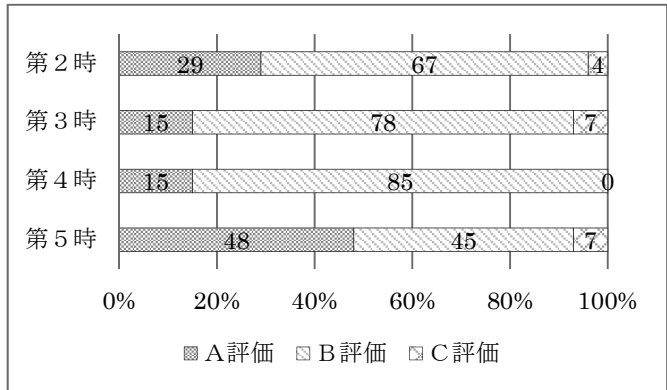
2 単元のまとめに設定したパフォーマンス課題が思考力・判断力・表現力等の育成に有効かを検証する
分析B：時代の特徴をまとめるという1つ目の課題で、比較を通して見つけた共通点や相違点から時代の特徴を見出すことができたかどうかに関するパフォーマンス課題の記述内容の分析結果



【資料4 課題「時代の特徴をまとめる」の評価】

V 結果と考察

1 「比較を通して考える場の設定」と「OPPシートの活用」を毎時間繰り返していくことが思考力・判断力・表現力等の育成に有効かを検証する
分析A：比較を通して見つけた共通点や相違点から時代の特徴を見出すことができたかどうかに関するOPPシートの記述内容の分析結果



【資料3 各時間におけるOPPシートの評価の割合】

資料3からA評価は少ないものの、それらの生徒たちは比較をして見つけた共通点や相違点から特徴を見出すために、変化などの推移、原因や背景について考察しようとしていたことがわかる。B評価の記述は、前の時代とどのように変わったのかという点のみで、さらにそこから時代の特徴についてまで述べられておらず、内容が十分ではない。しかし、どれも既習の時代と比べたものになっており、思考、判断、表現するための視点を身につけることができたと考えます。

もし、比較を取り入れず、従来通りの講義形式の授業を行っていたならば、教科書や資料集に書かれている鎌倉時代についてまとめた記述になっていたと考えられる。その場合、読み取る力やまとめる力は身につくかもしれないが、既習の時代と比べて思考、判断、表現する力にはなっていない。比較をして共通点や相違点に着目し、そこから背景や原因、影響などを考察

資料4を見ると、OPPシートの記述内容と比較して大きな変化は見られないが、生徒の変容を分析すると、C評価だった生徒はB評価に、B評価だった生徒数名がA評価に変わっていた。反対に、A評価からB評価、B評価からC評価へと下がった生徒はいなかった。

C評価からB評価へと変わった記述をみると、IV章(5)生徒オ・ト・ナの破線部のように、時代の特色を述べる際に比較を通して考えようとする姿が見られた。生徒トは、第5時の文化に関するOPPシートで、金剛力士像についてわかったことを記述していたが、パフォーマンス課題では、箇条書きではあるが項目ごとに比較をして時代の特色を見出そうとしていた。

B評価からA評価へと変わった記述では、IV章(5)生徒ニ・セ・ノ・テの二重線部のように、比較をして見つけた共通点や相違点から時代の特色を見出そうとしていることがわかる。生徒セやテは、第4時の生活や第5時の文化に関するOPPシートで、前の時代との違いについてのみの記述であったが、パフォーマンス課題では、前の時代との違いから時代の特色を見出し、「現代の生活に少しずつ近づいている」「貴族の文化から武士の文化に変化する途中」という言葉で表現している。

これらは、OPPシートをパフォーマンス課題に取り組むためのプレ課題として位置づけ、パフォーマンス課題で改めて時代の特色について考察させたことと、考察する前に配付した授業通信を見直させたことによる成果だと考える。どのように記述するのがよいかわからなかった生徒は、授業通信を見て具体的に述べるための例の示し方や適切に記述するための見方など、書き方や視点を学んだと思われる。だからこそ、OPPシートと同じ記述をパフォーマンス課題においてもすることなく、自分の考えを十分に検討し、新しい視点を得て時代の特色を適切に表現することができたのだと考える。

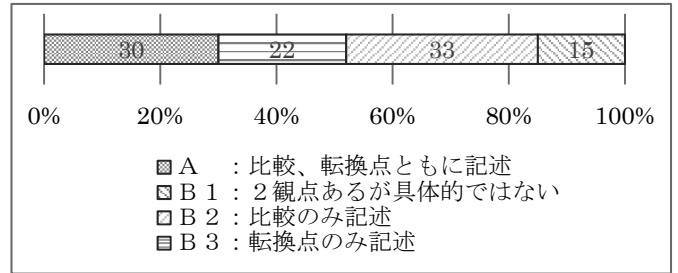
また、時間が足りずにOPPシートを十分に書ききれなかった生徒にとっては、改めて記述する機会を得たことで、十分な時間を与えられ、これまでの授業を想起しながら記述することができたことも要因となったのであろう。

B評価のままだった記述にも変化が見られた。IV章(5)生徒ヌ・ネ・ハの波線部に見られるように、比較を通して気づいた相違点を述べるだけでなく、そこから時代の特色を見出そうとする記述になっている。特に生徒ヌやハは「つまり」や「やはり」という言葉を使って、時代の特色を表現していることがわかる。

このように評価としての変化は表れていないが、記述内容の質的向上が見られる生徒が半数以上いた。

今後は、特色を見出す視点を身につけさせるだけでなく、適切に表現させるための手立ても必要になると考える。

分析C：歴史展の目玉企画を推す理由を書く課題で、他の時代と比較をし、その上で時代の転換点という観点から理由を書くことができたかどうかに関するパフォーマンス課題の記述内容の分析結果



【資料5 課題「歴史展の目玉企画」の評価】

資料5を見ると、A評価の生徒は3割で、全員1つ目の課題でもA評価であった。IV章(5)生徒ヒ・フの記述を見ると、目玉企画として歴史事象を取り上げた理由について、他の時代との比較から共通点や相違点に着目し、そこから時代の転換点となる背景や原因、影響などを考察して述べていることがわかる。歴史事象の特色を述べようとする際に、これまでOPPシートで繰り返し取り組んできた歴史の特色の捉え方を取り入れた記述である。このように、もともと思考力や表現力が高かった生徒は、思考・表現活動を繰り返したことで、発展的な2つめの課題においても、身につけた力を活かして記述することができた。

B評価であった生徒は全体の7割であった。そのうちB1に分類されたのは、全体の2割強にあたり、IV章(5)生徒ヘ・ホのように、両方の視点をもって記述している生徒たちである。彼らは、歴史展の目玉企画になると考えた理由として、下線部のように他の時代との相違点について記述するだけでなく、そこから時代の特色や転換点を見出して理由を述べている。ただ、生徒への「今までの朝廷はしてこなかったたくさんしたこと」という表現のように、具体的な記述が見られなかったため、具体例を示した記述ができていればA評価になっていたと考える。したがって、B1の生徒たちには、本実践デザインを取り入れた活動を繰り返し、OPPシートの記述についての意見交換や授業通信などで、具体的に述べるための視点や例の示し方など適切に表現するための手立てが必要だと考える。

B評価のうち、残りのB2・B3に分類される生徒は全体の約半数であった。この5割弱の生徒たちは、「比較」または「転換点」のみから記述していた。したがって、「比較」だけで記述をしていたB2の生徒たちは「転換点」の視点を取り入れて記述することによって、また、「転換点」だけで記述をしていたB3の生徒たちは「比較」の視点を取り入れて記述することによって、A評価に近づくことができると考える。

B2における「転換点」に関しては、「転換点」という視点を毎時間の授業の中に組み込むことで、生徒がより意識できるような指導をしていく必要がある

と考える。

B3における「比較」の視点に関しては、B1の具体的に記述するための手立てと同様、このような実践を繰り返し、OPPシートの意見交換や授業通信などで歴史的な事象を捉える視点や書き方を指導していくことが有効だと考える。

このように全体の7割を占めるB評価の生徒の力をさらに高めていくためには、本研究の実践デザインを取り入れた活動を積み重ねていき、思考力・判断力・表現力等の機会をさらに与えることが重要になってくると考える。また、支援の方法については、ワークシートや思考ツールなどの工夫も大切になってくると思われる。A評価の生徒が時代の特徴を見出すために頭の中で行っていた一連の思考を「見える化」する支援をすることで、思考することが苦手だと思っている生徒にとっても有効なものになるであろう。今回の実践デザインをより機能させるための方策をこれからも考えていきたい。

VI 結論（成果と今後の課題）

講義中心の授業を改め、思考力・判断力・表現力等を高める授業のあり方について研究を進めてきた。本実践を通して得られた成果は次の2点である。

- ・講義中心の授業から脱却できたこと
- ・社会的な事象の歴史的な見方・考え方をを用いて時代の特徴を捉える姿が見られるようになったこと

この姿から生徒の思考力・判断力・表現力等が高まったと考え、本実践のデザイン「比較を通して考える場の設定」「OPPシートの活用」「逆向き設計論に基づくパフォーマンス課題の設定」が有効であったと考える。さらに、これらの実践を繰り返すことの重要性も明らかになった。

また、本実践が中学1年生の本校の生徒にとって興味がある活動であったかどうかというアンケートをとったところ、7割を超える生徒が「次回もパフォーマンス課題を取り入れた学習に取り組みたい」と答えた。一方、3割の生徒は「考える時間がもっとあれば取り組みたい」と答えていることから、本実践デザインは非常に好意的に受け入れられたことがわかる。今後ともこの実践デザインによる活動を続けていくことが、思考力・判断力・表現力等を身につけさせる手段の一つとして、本校の生徒にとって有効であると考えられる。一方、実践に取り組む中で明らかになった課題は3点である。

- ・じっくりと考えさせる時間を確保するための授業展開の工夫
- ・時代の特徴を考察する際の思考力や表現力を支援する方策
- ・パフォーマンス課題の内容
特に3点目については、時代の特徴について考える

際、それぞれの時代がどのような根拠で区分されているかを理解することが重要であると考えられる。本実践では、鎌倉幕府の滅亡まで学習しておらずできなかったが、例えば鎌倉時代を学習した後に「鎌倉時代を区切るとしたらどこで区切りますか」と問うことで、本研究で求める思考力（時代同士を比較する力、時代の特徴をつかむ力）をより育成できるのではないかと考える。また、このような実践を積み重ねることの有効性を確認するために引き続きこのような実践を実施する必要もある。今後も生徒の思考力・判断力・表現力等を育成するために授業実践と授業改善を継続したい。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省(2016)「平成28年12月21日 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/index.html（2018.11.30閲覧）
- 2) 文部科学省(2018)『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編』東洋館出版
- 3) 丸山博章(2014)「時代の特徴をとらえる力を高める中学校社会科歴史的分野の学習指導の工夫ー『近世の日本』におけるシンキングシートを取り入れた授業構成を通してー」
http://www.hiroshima-c.ed.jp/center/wp-content/uploads/kenkyu/choken/h26_kouki/kou04.pdf
(2018.11.24閲覧)
- 4) 松本温三(2016)「課題を設定する力を育成する中学校社会科の学習指導の工夫ー歴史的分野『近代の日本と世界』における授業モデルの作成を通してー」
http://www.hiroshima-c.ed.jp/center/wp-content/uploads/kenkyu/choken/h28_zenki/zen04.pdf
(2018.12.28閲覧)
- 5) 山下春美・堀哲夫(2009)「認知過程の外化と内化を生かしたメタ認知の育成に関する研究ーその1ーOPPAによる外化と内化のスパイラル化の理論を中心にしてー」山梨大学教育人間科学部紀要11, pp.12-22
- 6) 福谷泰斗・皆川直凡(2013)「中学校社会科における教科書の背景知識と一枚ポートフォリオの導入による授業理解の促進についての一考察ー知識基盤社会を生きる力の育成をめざしてー」『鳴門教育大学情報教育ジャーナル』No.10 pp.45-50
- 7) 松岡和恵(2016)「時代の特徴を捉える力を育てる中学校社会科学習指導の工夫ーパフォーマンス課題を取り入れた、歴史的な事象を関連付けて捉える学習活動を通してー」
http://www.hiroshima-c.ed.jp/center-new/kenkyu/chouken/h28_kouki/kou04.pdf（2018.12.27閲覧）
- 8) 北俊夫(2012)「特殊性と共通性をとらえる＝魅力ある資料の発掘・読解・活用のヒント」『教育科学 社会教育6月号』明治図書 pp.43-45
- 9) 西岡加名恵(2008)『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』明治図書